

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 772 事業名 特別陳列事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		社会教育費	
	目		博物館費	
	大事業		博物館事業	
	事項		特別陳列事業	

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	1	文化遺産の保護・継承
取組	2	文化遺産の公開と活用

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間		～	
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	博物館	寺西 貞弘 (423-0003)	
関連課			

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実		
その他	○	その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	館蔵資料を中心に展覧会を構成し、市民に有用な話題を提供することによって、市民文化の向上に寄与する。	会期を春(4月から6月)と冬(1月から2月)に、公開日数それぞれ約50日程度で設定し、館蔵資料を中心として展覧会を構成する。集客ツールとしてポスターは配布するが、図録は発行しないが、展示資料目録を配布する。なお、冬の特別陳列は、毎年小学生社会科の単元『移り変わる私たちのくらし』に対応した民具・農具を展示し、市内外から多くの小学生の団体見学を誘致している。				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		過去2年間に市内で発掘された出土遺物を「発掘土器ドキ昔の和歌山」として4月25日から6月17日まで開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を1月13日から2月28日まで開催。	館蔵資料を中心に「紀州藩の士族たち」を4月24日から6月6日まで開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に1月12日～3月6日まで開催	寄贈された全国の郷土玩具資料を中心に「心の旅 全国郷土玩具展」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催	館蔵資料を中心に「発掘速報展」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催。	館蔵資料を中心に「発掘速報展」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催。

2 事業コスト

事業費 千円		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	322	588	322	277	322	440	311		322		
	伸び率 (%)	-		0.0%		0.0%		-3.4%		3.5%		
	人件費	常勤職員	5,969	3,724	5,969	2,942	2,942	2,949	2,942		2,942	
		非常勤職員	0	0	0	0	0	0	0		0	
		小計	5,969	3,724	5,969	3,724	3,724	2,949	3,724		3,724	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
その他	0	0	0	0	0	0	0	0		0		
一般財源(税等)	322	588	322	277	588	440	588	588		588		
所要人数	常勤職員	0.78	0.49	0.78	0.39	0.39	0.39	0.39		0.39		
	非常勤職員	0	0	0	0	0	0	0		0		

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	特別陳列開館日数				年度目標値	78	78	83	83	83	
					実績値	78	83	83			
	単位				日	全体目標値	78	全体目標達成度	100.0%	1136.0%	100.0%
					年度別達成度						
					年度目標値						
成果指標	特別陳列入館者数				年度目標値	3600	3600	3600	3600	3600	
					実績値	3512	3925	4838			
	単位				人	全体目標値	3600	全体目標達成度	97.6%	109.0%	134.4%
					年度別達成度						
					年度目標値						
					実績値						

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) A
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	この事業は、館所蔵品や民間からの寄贈品を元に開催するため歴史博物館に対し、理解のある市民の好意のうえに成り立っている。また、小学生が授業のため来館する際は、様々な知識が必要なため、数少ない学芸員時間をやりくりし説明や質疑応答の対応を行っている。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	